



## できないことが悦び

8年前、私は江戸川区の中学校の校長を務めていた。ソフトテニス部が、青井中での大規模な練習試合に招待された。前任校では、西新井中時代の教え子が英語教師でソフトテニス部の顧問をしていた。私は、生徒と教え子の応援に久しぶりに青井中を訪れた。各校のレギュラー選手は校庭中央のテニスコートを中心に団体戦を行っていたが、その他の選手は、校庭の端に移動ネットを使ってテニスコートを一面作り、沢山のペアで個人戦の試合を回していた。体が細く小さい左利きのMの試合が始まった。相手に攻め込まれ0-3の完敗。負けた方が審判をするのでMはすぐに次の試合の審判に入った。審判終了後、私にアドバイスを求めてきた。ファースト・サーブが一本も入らなかったため、サーブのアドバイスだけ短く伝えた。その後は、校庭周りの防球ネットに向かって黙々とファースト・サーブの練習を続けていた。やっと回ってきた第二試合、練習の成果かファースト・サーブは何本か入ったが、相手に徹底的にバックハンドを狙われて1-3で敗戦。審判終了後、今度は防球ネット相手にバックハンドの練習を始めた。Mは、いつもニコニコ笑っている。「できないこと」や「難しいこと」が大好きなのである。普通の人ならストレスが溜まったり、嫌になって諦めてしまうのだが、Mは「できないことが、できるようになるって楽しいですね。」とカラッとやってしまう。Mにとっては、勉強も部活も行事も何事も「知恵の輪」のようなものである。その「知恵の輪」も難しければ難しいほどやる気を出してくる。「どうやったら解けるかな」「どうすればできるようになるかな」「やった。できた!」「解けた!!」この試行錯誤と達成感が何とも言えないらしい。テストでも点数ではなく間違えたところが解けたときに満面の笑みを浮かべる。中学3年6月、結局Mは団体戦のレギュラーにはなれなかった。しかし、区夏季大会個人戦・中学校最後の大会で、後に都大会上位まで進出した強豪相手にファイナルゲームの熱戦を披露し引退した。中学3年3月、Mは、第1志望の都立高校に一般受験で合格し、卒業式では答辞を私の目の前で涙を流しながら読み上げてくれた。彼女にとって、中学校時代、一番難しかった知恵の輪はソフトテニスだったらしい。中学校卒業後も時々、出勤や帰宅時、登校・下校途中のMとすれ違うときがあった。「勉強大変だけどやり甲斐がある」「ダンス部で汗を流している。楽しい」「社会科、倫理の授業が面白い」高校生活も充実していることがうかがわれた。高校卒業後は国立の大学に進学し、社会学系の研究をしたいと言っていた。

3年前の3月10日、臨時休校で誰もいない青井中の校庭を眺めていたら、何かフッとMを思い出した。もうMも高校卒業かあ、Mの進路が気になった。Mと未だに連絡を取り合っている顧問に連絡したところ、夜に返事が返ってきた。「先生、今日、Mは東京大学に合格したそうです!」

祝

☆卓球部 2-1 生徒・2-3 生徒 東京都新人大会出場!!

連絡：12月4日～栄養士が産休に入ります。その間、産休代替栄養士が勤務いたします。

## 今後の予定

- 12月 3日(日) 保塚音楽祭 10:00～〈会場：東栗原小学校〉
- 4日(月) 第Ⅲ期時間割始、生徒集会
- 5日(火)～11日(月) 全学年：三者面談、校内展示会
- 9日(土) 土曜授業、展示見学、道徳授業地区公開講座
- 15日(金) 3年：私立高校入試相談
- 17日(日) (3年：都スピーキングテスト予備日)
- 20日(水) 避難訓練
- 21日(木) 3年：進路説明会
- 22日(金) 大掃除、生徒会交流会
- 25日(月) 学習コンテスト、全校集会
- 26日(火)～1月 7日(日) 冬季休業日
- 1月 9日(火) 全校集会